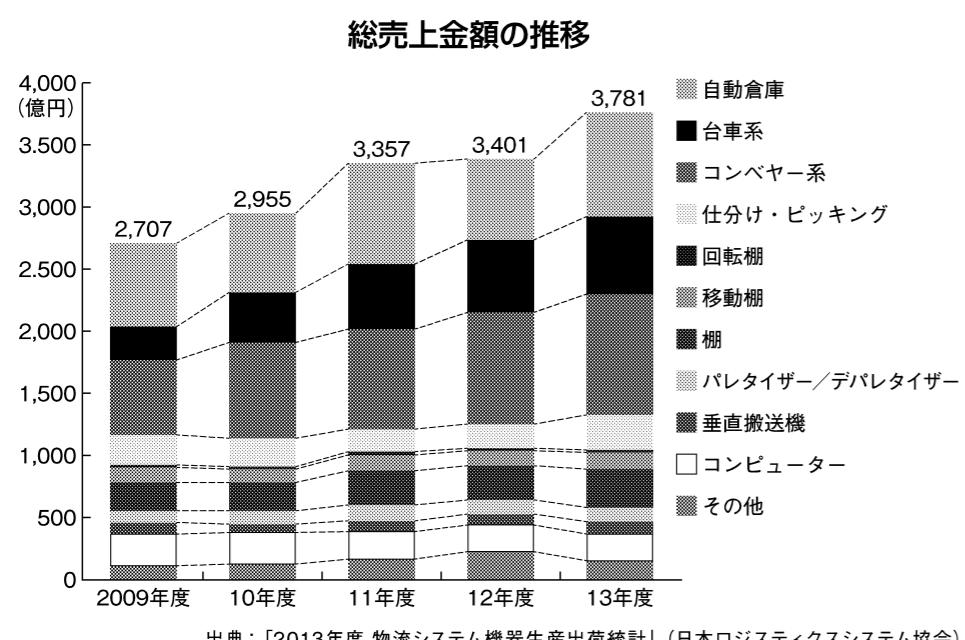


物流システム機器 高水準で推移



出典：「2013年度 物流システム機器生産出荷統計」（日本ロジスティクスシステム協会）

高速・安全に運 無人搬送機

加えて13年度は、物流システム機器の主たるユーダーである電機メーカーの業績回復により、半導体や薄型ディスプレー（FPD）などの設備投資が増加したこと、クリーンルーム向けの売上高が大きく伸長している。これらの要因により、売上高が高い水準で推移したようだ。

今回から同協会では、業種分類に「通信販売」を追加。その通信販売業者への売上高は111億4700万円となり、総売上金額の約3%。

今回の調査結果では、海外向けの売上高の伸長も注目される。具体的に

日本ロジスティクス協会は、物流機器メーカーを対象に、2013年度の000万円となり、2%の増加を示した。ム、ピッキング台車

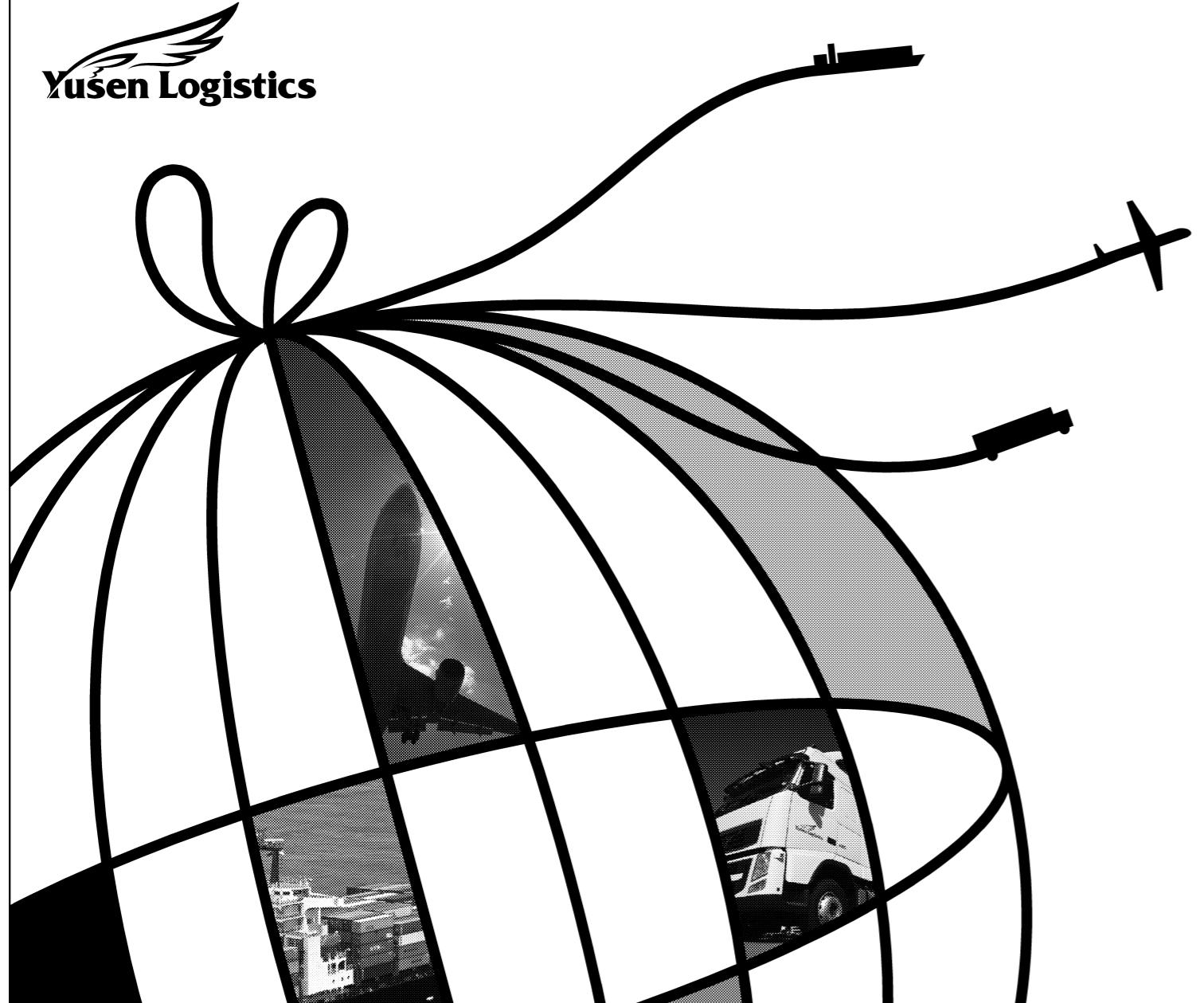


コンベヤーは好調な売り上げを示している

設備投資・海外向け堅調

日本ロジスティクスシステム協会（東京都港区、西田厚聰会長）がまとめた、物流システム機器25種について、国内主要物流システム機器メーカーを対象にした「物流システム機器生産出荷統計」によるところ、2013年度の物流システム機器の総売上金額は、3781億2000万円となり、2012年度の34000億8800万円から11・2%の増加を示した。調査対象にはパレット用自動倉庫や台車システム、ピッキング台車などが含まれている。

会長)がシステム機による車シテラ11・2 81億2の海外売上高は12年度の573億2900万円から、710億4600万円(前年度比23・9%増)へと増加しており、売り上げ全体を増加させる主要因となつた。その用途種類別の動向を見ると、自動倉庫が全体の30・9%、台車系が38・8%、コンベヤー系が18・2%を占めた。この3機種だけで、88・1%とほとんどを占める。この3機種のうち、自動倉庫は12年度の214億4700万円から34億2億9100万円(前年度比59・9%増)へと増加しており、コンベヤー系も同164億6200万円から同202億1800万円(同22・8%増)、台車系も同351億8800万円から同431億8700万円(同22・7%増)とそれぞれに増加を示した。なお自動倉庫、台車での海外向け金額は、いずれも半分程度ないしそれ以上がクリーンルーム向で占められているようだ。



世界をつなぐ、万能物流。

空から、海から、陸から、きめ細かいサービスで結んでいく。

ビジネスの形がさまざまに変化し続けている現在、物流に求められるニーズはより多様化しています。郵船ロジスティクスは、お客様のご要望に柔軟かつスピーディに対応。グローバル総合物流企業の私たちにしかできない、テーラーメードの物流サービスを追求しています。



9月10日 15:40～16:10 セミナーB会場(5、6ホール)にて
当社のITソリューションを紹介します。

郵船ロジスティクス株式会社 www.jp.yusen-logistics.com